

■ ■ 九頭竜温泉「平成の湯」再整備工事の概要 ■ ■ ■

【事業の経緯】

平成25年3月に策定された「大野市和泉地区化石保全活用計画」を推進するため、「化石を巡る魅力発信プロジェクト」の一環として、福井県のふるさと創造プロジェクト補助金を活用し、化石の魅力を体感できる施設として「平成の湯」を再整備

平成24年7月	基本・実施設計
平成25年2月	基本・実施設計完了
平成25年8月	起工式・工事着工
平成26年8月	本体の完成
平成26年9月	プレオープン
平成26年10月	全体工事の完成

【施設の概要】

- 構造 鉄骨造 1階建て
- 建築面積 670.23㎡(202.9坪) (本館棟637.47㎡/東屋32.76㎡)
- 延床面積 624.87㎡(189.2坪) (本館棟592.11㎡/東屋32.76㎡)
- 浴室①
 - ・内湯 … 内湯、半身浴、サウナ、洗い場(9)
 - ・外湯 … アンモナイト形露天風呂、五右衛門風呂
- 浴室②
 - ・内湯 … 内湯、半身浴、サウナ、洗い場(9)
 - ・外湯 … 恐竜足跡形露天風呂、五右衛門風呂
- 脱衣ロッカー 120 (浴室①60、浴室②60)
- 休憩スペース 30帖
- 駐車場 34台

【活用方法】

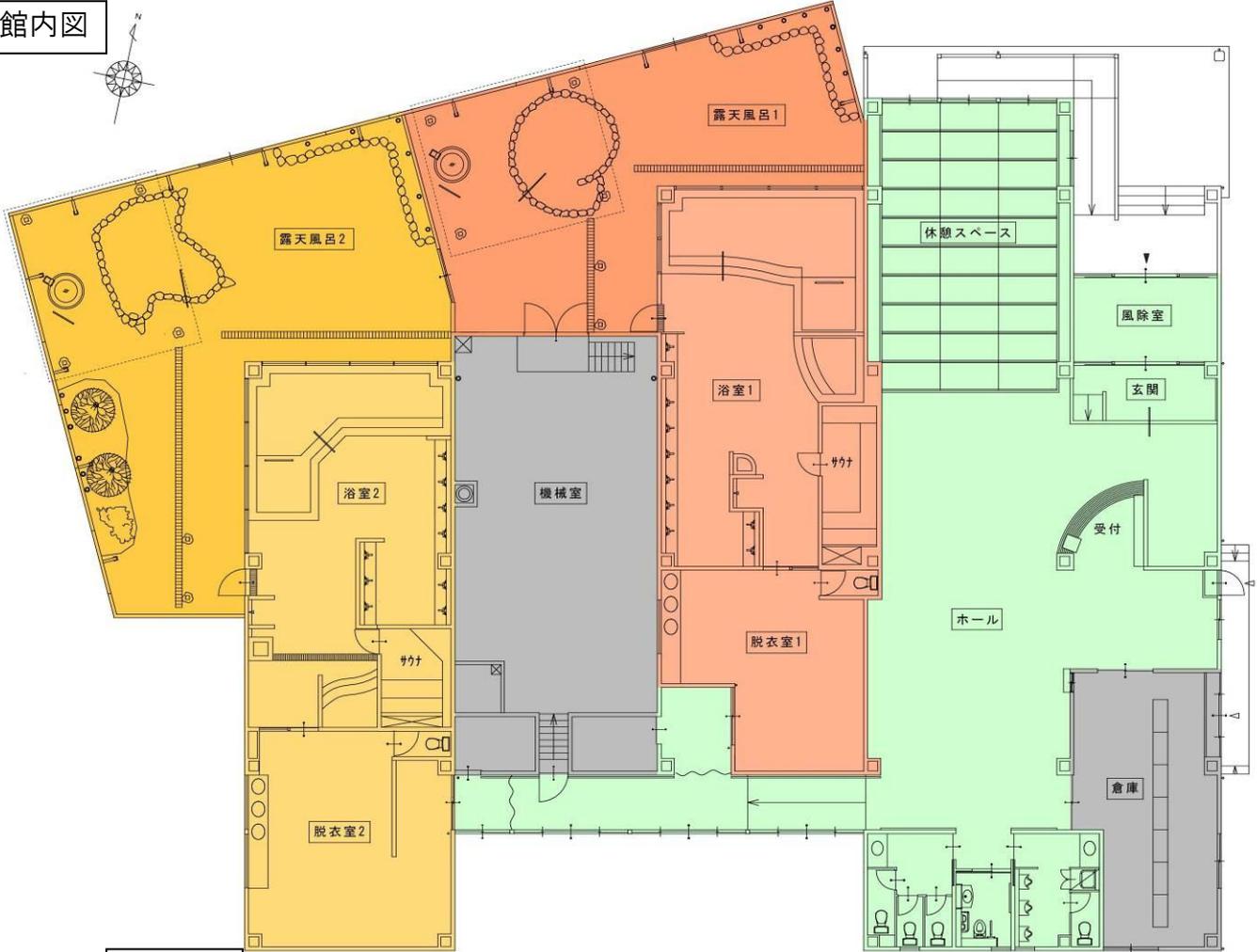
化石の「現地発掘体験会」から平成の湯を活用した「化石講座(化石畳上会)」につなげるイベントを実施し、JR九頭竜湖駅裏で実施している「化石発掘体験会」等とあわせ、化石を巡る魅力発信につなげていく予定。これにより、平成の湯の入り込み客数50,000人を目指す。

【事業費等】

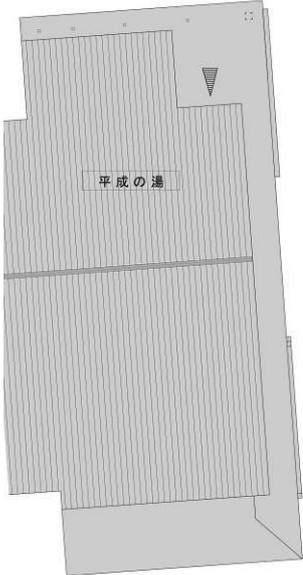
本体工事費		249,858千円
施工監理費		6,090千円
合計		255,948千円
財 源 内 訳	県費補助金 (ふるさと創造プロジェクト補助金)	70,000千円
	市債(過疎対策債)	168,000千円
	一般財源	17,948千円

施設のご案内

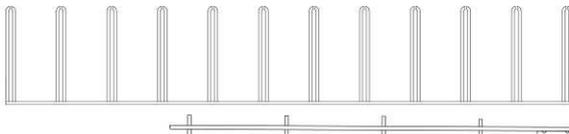
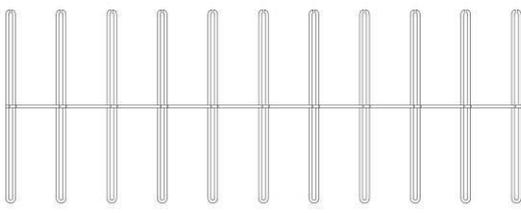
館内図



駐車場



マイクロバス



化石の展示

- 露天風呂の壁面には、厚い泥岩層が特徴的な「貝皿層」や黄色の砂岩層と水色の泥岩層とが互い違いに重なった砂泥互層の「伊月層」をイメージし、和泉地区で採集されたアンモナイトや植物化石、二枚貝、巻貝などの化石を埋め込む

浴室1の化石展示
(貝皿層をイメージ)



貝皿層の断面を表現し、和泉地区で採集されたアンモナイトの化石を埋め込んでいます。水色で示した厚い泥岩層が特徴的な貝皿層は、約1億6700万年前～1億6500万年前のジュラ紀中期に、アンモナイトが生息していた海で積もった地層です。

浴室2の化石展示
(伊月層をイメージ)



伊月層の断面を表現し、和泉地区で採集された植物化石、二枚貝や巻貝などの貝化石を埋め込んでいます。

伊月層は、黄色の砂岩層と水色の泥岩層とが互い違いに重なった砂泥互層で、恐竜が生息していた約1億3千万年前の白亜紀前期に、海に近い川辺で積もった地層です。この伊月層からは、イグアノドンの子孫の足跡化石やティラノサウルスの子孫の歯も発見されています。

- ロビーには、和泉地区で採取された化石を展示



浴室1（洋風風呂）

- 洋風の風呂である浴室1は、室内に「内湯」、「半身浴」、「サウナ」、「洗い場」を備え、外湯には「アンモナイト形露天風呂」、「五右衛門風呂」を配置



アンモナイトのレリーフ



内湯

- ジュラ紀のアンモナイトをモデルとした露天風呂



アンモナイトの湯

「平成の湯」周辺の下山は、日本で最初にジュラ紀のアンモナイトが発見された場所です。世界でチベットと和泉地区からしか見つからない「シュードニューケニセラス」という種類のアンモナイトを露天風呂の外形のモデルとしています。

浴室2（和風風呂）

- 和風の風呂である浴室2は、室内に「内湯」、「半身浴」、「サウナ」、「洗い場」を備え、外湯には「恐竜の足跡形露天風呂」、「五右衛門風呂」を配置



シダのレリーフ



内湯

- 和泉地区で発見されている恐竜の足跡化石をモデルとした露天風呂



恐竜の足あとの湯



和泉地区には恐竜が生息していた白亜紀の地層が残り、伊月層からは、イグアノドンの中間の足跡化石やティラノサウルスの仲間歯も発見されています。
和泉地区で発見された恐竜の足跡化石を露天風呂の外形のモデルとしています。